



WDIAI

Women Dental Academy for Implantology

「リモートでも、集い、学び、つながる」

# WDIAI 第 9 回定例会

抄録/講演プログラム

◎日時: 2021 年 2 月 23 日(火・祝) 10:00~13:05

◎オンラインセミナー

## 第9回WDAI定例会プログラム (2021/2/23)



- 10:00 実行委員長 ご挨拶  
10:05 WDAI会長ご挨拶 (田中道子先生)  
10:10 会員発表1 大庭美和子先生 【座長: 渥美美穂子先生】  
「貴重な経験 in Deutschland (ドイツの歯科事情)」  
10:30 会員発表2 白鳥香理先生 【座長: 渥美美穂子先生】  
「口腔内スキャンデータ、3D顔貌写真及び3DCTデータを用いた顔貌主導型補綴治療について」  
10:50 会員発表3 高田尚美先生 【座長: 渥美美穂子先生】  
「高齢者のインプラント治療 インプラントオーバーデンチャーの応用」  
11:10 休憩  
11:20 特別講演(船越栄次先生) 【座長: 田中道子先生】  
「Peri-Implantitisの予防と治療」  
12:15 休憩  
12:20 オンライン懇親会 【進行: 柳井智恵先生。企画: 小林真理子先生】  
(乾杯します。飲み物をご用意します)  
13:05 終了予定

※進行状況により時間/順番/内容は変更になる場合もございます。



# WDAI 会長ご挨拶

## 「第9回 WDAI 定例会によせて」

WDAI が 2016 年に発足してから第9回目の定例会を迎えました。今回、新型コロナウイルスの感染が世界的に蔓延する中、WDAI 第9回定例会「リモートでも集い、学び、つながる on ZOOM」と銘打って、開催する運びとなりました。

特別講演に歯周病学の第一人者でいらっしゃる船越栄次先生をお迎えしての開催です。

WDAI は船越先生とストローマン社の嶋田社長の肝いりで発足した会と申し上げても過言ではありません。船越先生をもっと早くお招きしたかったのですが、いつも研修会、海外講演など年間スケジュールがほとんど埋まっておりますが実現できませんでした。皮肉にもコロナのお陰でようやく可能になりました。

今日は implant 周囲炎のご講演と聞いております。

会員発表は

大庭美和子先生(千代田ファーストビル歯科)、

白鳥香理先生(スワンデンタルクリニック)

高田尚美先生(小金井歯科)

をお願いしております。

この優秀な先生方のご発表を聞いて皆様の治療の情熱が高まることを期待します。

今の時代は第4次産業革命であると言われております。第4次産業革命とは、IoT(Internet of Things)や AI(Artificial Intelligence)が情報通信・医療・教育・サービスなど、全ての分野に広がり移行して社会構造が変革するということです。

「時代は変わった!!」

「歴史から学ぼう! 第5、第6産業革命へとまだまだ進歩する。」

我々治療現場でもデジタル化が進み、より安全に・より正確に・よりスピーディに・より低コストで・より少ない労働で、治療ができる時代が到来しています。

時代の流れのベクトルは全てその方向に向いています。

WDAI もこれを積極的に取り入れ、実践し、それを駆使して最善の治療を患者に行えるように勉強会を組み立てる必要があると考えています。今後、理事の先生方と相談しながらデジタル部門に重きを置いて年間スケジュールを組み立てたいと思っております。

皆様のご意見を是非お聞かせください。

WDAI 会長



田中 道子

Tanaka Michiko

歯科医師

医療法人社団道永会

田中歯科鎌倉(神奈川県)

【所属学会、団体、資格等】

- 日本口腔インプラント学会
- 日本歯周病学会
- ITI Fellow
- デンタルコンセプト 21 理事
- Clinical Research Group
- WDAI 会長

WDAI 会長 田中道子

WDAI 第9回定例会  
2021年2月23日(火)

## 実行委員長ご挨拶

およそ1年前、テレビでは中国武漢市のロックダウンという異様な映像が流れる中、第8回 WDAI 定例会は2020年2月2日に開催されました。その当時、まもなく日本もこれほどまでの新型コロナ禍に見舞われようとは想像できませんでした。同年7月の第9回定例会は船越先生に特別別公演を引き受けいただき、その他5名の発表者も決まっておりましたが、ぎりぎりまで感染状況を見た挙句、延期という苦渋の決断に至りました。

この1年、これまで続けてきたベーシックコース、メンタープログラム等の対面のイベントはすべて休止しましたが、「新しい生活様式」に合わせて WDAI も「リモートでも集い、学び、つながる」を合言葉に活動方法を模索してきました。そして今回、規模はこれまでの半分ほどに縮小しましたが、半年遅れでオンラインによる定例会を開催する運びとなりました。

ご講演いただく先生方、ご準備いただく関係者の皆様にはこれまでとは違ったご負担をおかけいたしますが、WDAI 会員の学びの継続、ますますの発展のためにご協力いただきますことに深く感謝申し上げます。



立川 敬子

Tachikawa Noriko

歯科医師  
東京医科歯科大学  
インプラント・口腔再生医学分野  
インプラント外来  
(東京都)

**【所属学会、団体、資格等】**

- (公社)日本口腔インプラント学会 専門医・指導医・監事
- (公社)日本顎顔面インプラント学会 専門医・指導医・運営審議員
- (公社)日本口腔外科学会 専門医
- ITI Fellow
- WDAI 副会長

## 準備委員長ご挨拶

WDAI 定例会は今回でとうとう第九回目を迎えました。「リモートでも集い、学び、つながる on ZOOM」をテーマに開催いたします。

初リモートによる特別講演には、インプラント治療の第一人者でもある船越栄次先生をお招きし「Peri-implantitis の予防と治療」をテーマに、臨床を中心にお話しいただきます。

また、会員発表には3名の先生方がそれぞれ魅力的なテーマでビデオ登壇されます。

(1)大庭美和子先生は、ドイツでの歯科医師免許取得までのご奮闘を「貴重な経験 in Deutschland (ドイツの歯科事情)」と題してご講演。また、(2)白鳥香理先生には、補綴のトレンドでもある口腔内スキャンデータ、3D 顔貌写真及び 3DCT データを用いた顔貌主導型補綴治療について、臨床症例を交えてのご講演。

そして、(3)高田尚美先生には高齢者のインプラント、特にインプラントオーバーデンチャーの応用について貴重な長期症例をご提示いただき、豊かな臨床経験から得られた知見をお話しいただきます。

今回の定例会は経験豊富な先生方のご講演により、皆さまにとっては短くとも充実した“学びの時間”となることでしょう。お気軽にご参加いただければ、うれしく思います。



山口 葉子

Yamaguchi Yoko

歯科医師

昭和大学歯学部

インプラント歯科学講座(東京都)

### 【所属学会、団体、資格等】

- (公社)日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
- (公社)日本顎顔面インプラント学会
- (一社)日本歯科理工学会
- WDAI 理事

# 貴重な経験 in Deutschland (ドイツの歯科事情)

## I 目的:

2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに日本を飛び出し、夫の故郷・ドイツへ移住することになった私(歯科医師)の経験をお伝えしたい。

## II 概要:

大学院修了後、一般歯科の勤務医として10年間働いた私は、東日本大震災をきっかけに、北ドイツの小さな町で専業主婦として暮らすこととなった。

日本での激務の日々から解放されて喜んだのもつかの間、やがて私はどうしても家でのおぼろげ過ぎだけの生活に耐えられなくなった。「外に出て何かしたい!」という気持ちが高まり、まずは「移民のためのドイツ語クラス」に通うことから始めた。私が移住した2011年以降、中東やアフリカの各地において内戦が勃発し、ドイツには年々多くの移民が入国してきていた。そのため、政府は移民受け入れ対策として「移民用のドイツ語クラス」を各地で開催していたのである。移民がドイツで生活し、ドイツ人と同じ機会を得て社会に関与するためには、ドイツ社会に統合していく必要がある。政府は、2005年から外国人に「ドイツ語を学ぶ『統合コース』の受講」を義務付けていた。

日本と同様に超高齢化社会を迎えているドイツでは、すでに労働力不足——特にエンジニアや情報技術関連の専門家、医師などの不足が深刻な問題となっていた。政府はこの問題を解決するために、さらなる移民の受け入れが必要だと考えた。ゆえに「出身国で取得した学歴、職歴などの資格を認可し、移民が就職できる可能性を高める」とことと同時に、「資格を持つ有能な人材を厳選し、国外から呼び寄せる」ことに力を入れていたのである。

## III 考察および結論:

外国人医師・歯科医師としてドイツで働くためには、承認試験(Approbationsprüfung)に合格しなければならない。私の目標はまずドイツ語検定で中級(B2)まで取得し、さらに上記の承認試験に合格することであった。前述のドイツ社会の事情も良く理解せず「移民のためのドイツ語クラス」に参加した私は、ひたすら移民として進むべき道を歩むことになってしまった。もちろん、多くの方々の協力のおかげで、ドイツ社会の仕組みについてさまざまな知識を得られたことは、本当に貴重な経験となった。こうした経験の中でも、特にドイツの歯科事情について皆様にお伝えできれば幸いである。



大庭 美和子

Oba Miwako

歯科医師

千代田ファーストビル歯科  
(東京都)

### 【所属学会、団体、資格等】

- 日本歯科保存学会
- 日本口腔インプラント学会
- 歯科医師臨床研修指導医
- ドイツ歯科医師免許
- WDAI 会員

# 口腔内スキャンデータ、3D 顔貌写真 及び 3DCT データを用いた顔貌主 導型補綴治療について

## I.目的:

当院では、補綴物やインプラント上部構造の作製に「口腔内スキャナーTRIOS3」を用いている。これに3D顔貌写真と3DCTデータを組み合わせることによって、より顔貌に調和し、咬合を考慮した審美補綴治療を行うことが可能となる。以下、「インプラントと天然歯が混在した全顎の補綴治療における口腔内スキャンデータ、3D顔貌写真及び3DCTデータの有用性」について、当院で行った治療例を挙げて説明する。

## II.症例の概要:

46歳、女性

主訴: 17,16,13,12,26,35,36,37欠損による咀嚼困難

既往歴: 特記事項なし

現病歴: 2019年9月、他院にて義歯治療を前提とした上下顎補綴治療のためのプロビジョナルクラウンを装着後、咀嚼障害・審美障害を主訴として、当院を受診するに至った。

現症: 11,12歯冠幅径の不調和、咬合平面の崩壊、義歯不適合。口腔清掃状態は良好。

診断名: 17,16,13,12,26,35,36,37欠損 咀嚼障害

## III.処置および経過:

Bellus3D Dental Pro を用いて3D顔貌写真を撮影し、3DCTデータをマッピングさせた後、骨データ上でカンペル平面を決定。さらにTRIOS3でスキャンした口腔内データを加え、カンペル平面と平行でインサイザルエッジを通過する平面を仮想咬合平面とした。これを基準にCADにて歯冠及び歯列を設計し、これを利用してインプラントの治療計画を立案した。2019年12月に17,16と36,37にインプラント埋入手術を行った。免荷期間中に、最初の治療計画で設計したデータからプロビジョナルブリッジを作製、装着。その後、インプラントプロビジョナルクラウンを作製し、装着した。咬合・咀嚼機能及び顔貌との調和を確認し、最終的に天然歯にはジルコニアブリッジを、インプラント部位にはスクルー固定式のジルコニア上部構造を装着した。結果、咬合は安定し、顔貌との調和も良好であった。

## IV.考察と結論:

近年、さまざまな補綴物作製に口腔内スキャナーが応用されている。今回は、さらに3D顔貌写真と3DCTデータを用いて、インプラント治療や天然歯の補綴計画から上部構造の作製まで、一貫してデジタル技術を活用した治療を行った。デジタルデータを用いることにより、治療前の患者への説明においても、インフォームドコンセントを得やすくなる。またデジタルデータであれば修正や変換が容易であり、従来の印象・咬合採得方法に比較して誤差が減少し、さらに患者の苦痛も軽減することが可能となる。さまざまなデジタルデータの特性を生かし、適切に組み合わせることによって、インプラントと天然歯が混在した複雑な全顎治療ケースであっても、正確に、かつ比較的円滑に治療を行うことができた。

## 会員発表



白鳥 香理

Shiratori Kaori

歯科医師

医療法人社団皓歯会

SWAN DENTAL CLINIC(札幌市)

## 【所属学会、団体、資格等】

- 医学博士
- 日本口腔インプラント学会 専門医
- 日本口腔外科学会
- 日本歯周病学会
- ITI Member
- WDAI 会員

WDAI 第9回定例会  
2021年2月23日(火)

# 高齢者のインプラント治療 インプラントオーバーデンチャーの応用

## I. 目的:

日本にインプラント治療が導入されてから、50年近くが経過した。現在、超高齢社会を迎えている日本では、比較的若いころにインプラント治療を受けた患者が高齢化しているケースや、高齢者にインプラントを適用するケースが多く見られる。

ここでは、インプラントオーバーデンチャー(以下 IOD)の長期症例や部分床義歯とのコンビネーション、CAD/CAMによるサージカルガイドを用いた新しい症例を提示し、IODの有用性やサポータティブセラピーについて考察したい。

## II. 症例の概要:

症例1 1998年10月初診 62歳, 女性.

主訴: 噛めない. 既往歴: 特記事項なし.

現症: 1999年10月, 15, 13, 11, 21, 23, 25に6本のインプラント植立, パー連結しIOD装着. 現在, 術後20年, 経過良好.

症例2 2008年4月初診 63歳, 男性.

主訴: 噛めない. 既往歴: 喫煙者.

現症: 2011年5月, 36相当部にインプラント植立, 34, 33, 43, 44, 47を支台歯とする既存の局部床義歯床下に義歯の沈下防止のため利用. 現在, 術後9年, 経過良好.

症例3 2009年9月初診 82歳, 女性.

主訴: 入れ歯を作り直したい.

現症: 長年使用していた義歯の不適合により来院. 顎堤が吸収し, 特に下顎はナイフエッジで, 新義歯調整後も咀嚼痛があった. 33, 43にインプラントを植立し, マグネットの維持装置を付けたところ, 義歯の維持安定が大幅に向上. 患者いわく「何でも噛めるようになった。」と満足が得られた. 現在, 術後10年, 経過良好.

症例4 2017年8月初診 55歳, 男性.

主訴: 入れ歯を作りたい.

現症: 多数歯の欠損, 進行したカリエス, 顎関節症・型. 2017年12月, CAD/CAMによるサージカルガイドを用い, 36, 33, 43, 46にインプラントを植立, テンポラリーデンチャーで慎重に顎位を決定. 2019年8月, 上顎に総義歯, 下顎にロケーターを維持装置としたIODを装着, 経過良好.

III. 考察および結論: IODは, 少ない本数のインプラントと可撤性の義歯を組み合わせることで, 口腔機能を回復し, 審美的にも良好な結果を得ることができる. また, 義歯を外すことでインプラント周囲の清掃を容易にし, 義歯の清掃を口腔外で行うことも可能となる. インプラント患者が高齢化した際に, あるいは高齢者に対するインプラント治療法として, IODは有効な手段であると考え.

## 会員発表



## 高田 尚美

Takada Naomi

歯科医師

小金井歯科 (東京都)

### 【所属学会、団体、資格等】

- 歯学博士
- 公社) 日本口腔インプラント学会専門医/代議員
- NPO 埼玉インプラント研究会副会長
- 日本顕微鏡歯科学会認定医
- ITI メンバー、公認インプラントスペシャリスト
- WDAI 会員



# Peri-implantitis の予防と治療

インプラント治療は今日の歯科医療において欠かせないオプションとなっており、欠損部位への補綴治療においては第一選択と言っても過言ではないと考えます。

現在は開業医であれば誰もが手掛けることのできる治療となり、それにとまらうトラブルも増加し、一時期マスコミを通じたネガティブな報道がされたこともご存知の通りであります。

トラブルが起こってからへの対応はもちろん必要ですが、まずトラブルを未然に防ぐことを念頭においた治療を行うべきであります。そして、トラブルの中でもインプラント周囲炎は他のトラブルに比べ対応が難しく、今日まで色々な治療法が実施されてきましたが未だこれといった画一的な治療法はありません。

そこで今回のオンラインセミナーでは、トラブルの中でもインプラント周囲炎の予防やその治療法について臨床を中心に考察してみたいと思います。

## 特別講演



船越 栄次

Funakoshi Eiji

歯科医師

船越歯科医院(福岡県)

## 【所属学会、団体、資格等】

- TUFTS 大学大学院 修了
- INDIANA 大学大学院修了、准教授 就任
- 船越歯周病研究所 主宰
- 米国歯周病 専門医
- 米国インプラント学会 (AO) 正会員
- 日本歯周病学会 指導医
- AAP 名誉会員
- ITI Fellow

# WDAI 女性歯科インプラントアカデミー LINE@アカウント 情報配信開始！

下記 QR コードでお友だち登録いただきますと、WDAI からのイベント情報などが届きます。

注記) LINE のお友だち登録と、WDAI 会員登録は異なります。ご入会希望の方は、WDAI 事務局までお問合せください。

WDAI オフィシャルサイト [www.wdai.jp](http://www.wdai.jp) / eMail : [info@wdai.jp](mailto:info@wdai.jp) / tel 03-3527-3890

WDAI 女性歯科インプラントアカデミー

LINE@

×

@zmp2999w

うれしい情報をLINEでお届け!

LINEの友だち追加から  
ID検索またはQRコードで登録してね♪

© LINE





**【予告】**

次回、WDAI 定例会 開催予定

開催日：2021年7月4日(日)

開催地：オンラインセミナー

申込先：<https://straumann-seminar-system.com/>

検索⇒「ストローマン セミナー」

※会員発表の募集の受付を開始いたします。

ご希望の方は 3/31 までに WDAI 事務局へ。 [info@wdai.jp](mailto:info@wdai.jp)

①ご氏名、職業(Dr. / DH / DT)、e-mail、携帯番号 ②勤務先名、

③演題、サマリー100字程度。